若い新規就農者の育成をはかれ

坂元　正春 議員

新規就農者の就農の経営の実態と、現在の成果はどのように現れているか。

実績と成果共に順調

町　長

新規参入者は、先進農家で2年間研修し、3年目から就農している。後継者への一時金支給者7名、新規参入のIターン者2名うち1名に、新規就農一時金100万円を支給した。今年度の一時金支給予定者は8名、新規参入者2名が、先進農家で研修中である。先に就農された1名は、法人化農業組織に加入し、認定農業者に登録、規模拡大し意欲的で成果も出ている。

農業公社・農業畜産研修センターの開設を急げ

坂元議員

既存施設の農業研修館等利用して、一騎当千の農業後継者として高校・大学卒業生を、農家の後継者として育成支援すべきではないか。

積極的に取り組む

町　長

現在4町合併問題が進んでおり、農業公社を持つ志布志・松山・有明町の公社を利用した農業者育成は可能となる。単独の場合は、公約でもあるし、積極的に取り組む考えである。

炭焼き・陶芸窯の改善で利用促進を

坂元議員

野方地区活性化センターの炭焼き・陶芸窯の利用状況と、造られた目的と経緯、現在利用されていない理由と、その原因は何か。今後の利用見込みはあるのか。

改善策を講じ利用促進をはかる

町　長

農村環境改善や農業振興、生涯学習の陶芸者の利用促進を目的としている。この炭焼き・陶芸窯は、製造工程や操作方法の難しさ、規模の大きさ等懸念され、今後の利用促進として現状の問題点を把握し、事業の目的に沿って、効果的な改善策を講じ、町民各団体に利用促進をはかる。

横瀬海岸浸食・依然として侵攻

坂元議員

浸食状況に対する今後の対応策として、海岸保全区域の延長申請は、田原川河口上右岸堤防決壊、水田の塩害防止対策は考えてあるか。

国や県に強く要望

町　長

地球温暖化の影響による海面の上昇や、湾内潮流の変化、波浪など色々な要因があり、県も海洋工学の専門家等を交え、検討もしている。又大隅沿岸の、海岸保全基本計画策定も進めており、町の観光資源、白砂青松の海岸線の総合的な海岸保全対策を、国・県に強く要望する。

横瀬海岸の浸食状況

合併の可否判断は

坂元議員

合併に関する集落座談会を終えて、合併の可否の判断をどの時点で判断するのか

議会とも相談の上

町　長

新まちづくり計画住民説明会に、参加された住民の意見等を、真摯に受け止めている。住民投票や合併協議会から離脱を望む意見もあり、現在住民による署名運動の動きもある。議会とも相談して決めたい。